

没後50年

映画監督

たさか
ともたか
田坂

いま見つめ直す
映画の《誠実》とは――

FILM DIRECTOR TOMOTAKA TASAKA

具隆



2024年9月7日[土]-11月24日[日]

*月曜日は休室です。

国立映画アーカイブ展示室（7階）

開室時間：午前11時―午後6時30分（入室は午後6時まで）
 *9/27、10/25の金曜日は開室時間を午後8時まで延長いたします。（入室は午後7時30分まで）
 料金：一般250円（200円）／大学生130円（60円）／65歳以上、高校生以下および18歳未満、
 障害者手帳をお持ちの方（付添者は原則1名まで）、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料
 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。（）内は20名以上の団体料金です。
 *学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、
 証明できるものをご提示ください。
 *国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券（オンラインチケット「購入確認メール」または
 QRコードのプリントアウト）をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。
 *2024年11月3日（日・祝）「文化の日」は、無料でご覧いただけます。

主催：国立映画アーカイブ 協力：午午会
 国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp/
 X(旧Twitter)：@NFAJ_PR Facebook：NFAJPR Instagram：nationalfilmarchiveofjapan

写真 [上]『湖の琴』（1966年）撮影スナップ（左から二世中村扇治郎、田坂監督、佐久間良子）／午午会所蔵
 [下左]『五番町夕霧楼』（1963年）田坂監督使用台本／鈴木尚之旧蔵 [下右]『路傍の石』（1938年）ポスター／国立映画アーカイブ所蔵



日本映画の豊かな歴史を眺めた時、名監督田坂具隆(1902-1974)の名を忘れることはできません。1926年に『かぼちゃ騒動記』でデビューした田坂は、やがて『真実一路』(1937年)、『路傍の石』(1938年)といった文芸作品でヒューマンイズムに溢れる作風を確立、内田吐夢とともに日活多摩川撮影所の全盛期を築きました。また、『五人の斥候兵』(1938年)からは迫真性と人間味に満ちた戦争映画の作り手としても名を轟かせます。

1945年8月、田坂は広島で被爆し数年の闘病を余儀なくされますが、再起後は数々の撮影所で石原裕次郎・中村錦之助・佐久間良子らスターの育成に力を注ぎつつ、『女中っ子』(1955年)、『陽のあたる坂道』(1958年)、『ちいさこべ』(1962年)、『五番町夕霧楼』(1963年)など幾多の名作を残しました。

こうした輝かしい作品群を誇りながらも、田坂は長らく再評価の機会に恵まれてきませんでした。しかし、小さきもの、弱きものに一貫して寄り添うその作風は、篤実に生きようとする人々へのエールに満ちており、続けざまの災厄に苛まれ、社会の不寛容さが増すこの時代にこそ強く輝くはずです。没後半世紀となる本年、当館は田坂をめぐる書籍の刊行に連動して、関係者より提供された貴重な資料を公開する初の回顧展を行うとともに、監督作の特集上映も開催いたします。人間の「善」を誠実に信じた田坂を通じて、映画とその向こう側にある人間の生を見つめ直す機会となるでしょう。

A name that cannot be forgotten when considering the rich history of Japanese cinema is that of master director Tomotaka Tasaka (1902-1974). Making his debut in 1926 with *Kabocha sodoki*, Tasaka came to establish a deeply humanistic style with literary works such as *Shinjitsu ichiro* (1937) and *Robo no ishi* (1938). He and Tomu Uchida were the forces behind the arrival of Nikkatsu Tamagawa Studio's heyday. With *Five Scouts* (1938) and subsequent works, he gained considerable fame as a maker of war films known for their vibrant realism and empathy.

In August 1945, Tasaka was exposed to the atomic bombing in Hiroshima and spent several years fighting associated health effects. However, after recovering, he worked at several studios, nurturing stars such as Yujiro Ishihara, Kinnosuke Nakamura, and Yoshiko Sakuma. He also left behind many masterpieces, including *The Maid's Kid* (1955), *A Slope in the Sun* (1958), *A Carpenter and Children* (1962), and *A House in the Quarter* (1963).

Despite his brilliant body of work, Tasaka has long gone without the kind of career reassessment enjoyed by other directors. However, his style, which consistently took notice of the small and the weak, bursts with encouragement for those trying to live lives of goodness and sincerity. It should shine particularly bright in this age of continuous calamity and increasing social intolerance. This year, which marks half a century since Tomotaka Tasaka's death, and in conjunction with the publication of a book about his life, the National Film Archive of Japan will present the first retrospective exhibition of his works, showing valuable materials provided by people concerned, and host special screenings of his films. We hope it will be an opportunity to take a fresh look at movies and the human lives lying beyond them through Tasaka, a genuine believer in human goodness.



1



2



3



4

5

- 1 『乳母車』(1956年)撮影スナップ(左から 石原裕次郎、芦川いづみ、田坂監督)日活株式会社所蔵
- 2 田坂具隆(1937年)小杉家所蔵
- 3 瀧花久子(1937年)小杉家所蔵
- 4 『土と兵隊』(1939年)「現地撮影スチール展」ポスター 国立映画アーカイブ所蔵(小杉勇コレクション)
- 5 『ピルマの豎琴』(1950年、未映画化)演出台本 国立映画アーカイブ所蔵(小杉勇コレクション)

展覧会の構成

- 第一章 小さきものへの眼差し 明治～昭和初期の子どもたち
- 第二章 戦争と人間と
- 第三章 小さきものへの眼差し 戦後の子どもたち
- 第四章 文芸映画にみる戦後の再生
- 第五章 ひと・暮らし

トークイベント

*詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

戦争と子ども 田坂具隆の二つの幻の企画

開催日:2024年9月21日(土) 講師:佐藤千紘氏(映画研究者)
場所:展示室ロビー(7階)

田坂が監督するはずだった『ピルマの豎琴』や撮影中断となった『夕刊小僧』を含め、再起に賭ける戦後の苦闘期を中心に田坂の仕事を振り返ります。

企画の見どころと展示品解説

開催日:2024年10月19日(土) 講師:笹沼真理子氏(牛牛会代表)、佐崎順昭(当館客員研究員)
場所:展示室内(7階)

田坂の没後50年の日となる10月17日を受けて、展覧会の見どころと主要な展示品を解説します。

音声資料紹介 「岸松雄が語る田坂具隆」

開催日:2024年11月16日(土) 解説:佐崎順昭(当館客員研究員)
場所:展示室ロビー(7階)

1975年9月25日、映画評論家岸松雄が、旧フィルムセンターで『路傍の石』が上映された際に田坂の経歴や思い出を語った貴重な音声を公開します。

関連上映企画「没後50年 映画監督 田坂具隆」

2024年10月8日(火)～20日(日)、11月5日(火)～24日(日)

*詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

関連書籍 新刊

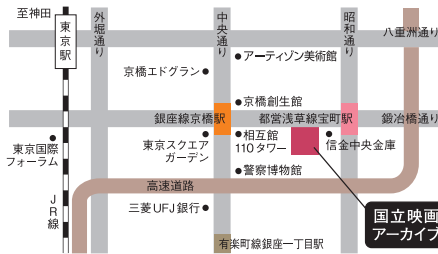
『ぐりゅうさん 映画監督田坂具隆』

【編】笹沼真理子・佐崎順昭・佐藤千紘 【発行】国書刊行会
【刊行予定】2024年10月
ISBN:978-4-336-07654-0
A5判上製・約620頁 予価:8,000円+税



国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ:ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp/



交通

- ▶東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- ▶都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- ▶東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- ▶JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

